「海の声キャンプ」

１．参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
１０組	１６組 ４８名	１６組 ４８名	１５組４６名 （子ども２４名、保護者２２名） 福井県９組、京都府５組、滋賀県１組

２．事業内容（概要）

◆ねらい

・若狭湾で海の活動を通して、親と子がそれぞれに自然体験を楽しむ。

・親と子どもが同じ敷地で活動しながら、少し離れて過ごすことにより、親が子の姿を再発見する。

・海の体験活動を身近に感じてもらい、今後の体験活動への意欲を高める。

◆期日・期間

平成３０年８月２５日（土）～８月２６日（日）〈１泊２日〉

◆参加者分析

今年度も若狭湾青少年自然の家主催のフェスティバルと同時開催で実施した。地元福井県からの参加者が多く、次いで京都府、滋賀県など近隣の府県からの参加者もあった。

事後のアンケートを見ていると、「事業の内容が面白そうだから」という項目を選んでいる家族が多く、参加しようと思った家族の、この事業に対する期待が大きいものであったことがうかがえた。また、他の事業に子どもさんが参加されて、そのことがきっかけでとなり、この事業に参加された家族もあった。

◆企画のポイント

〈日程〉

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
8月25日（土）	受付	オリエンテーション	昼食	はじまりのつどい	海活動 子ども…磯遊び 保護者…シーカヤック 磯観察			夕食、入浴		テント設営	自由時間 ※おさかな講座への参加も可		就寝

	6	7	8	9	10	11	12	13
8月26日（日）	起床 洗面 荷物の整理	朝のつどい・浜散策	野外炊事（カートンドック）	海活動 親子…シーカヤック 磯遊び 磯観察			※希望者…昼食 解散	

実施時期については、参加しやすさや広く事業を広報することを踏まえ、若狭湾青少年自然の家が毎年実施しているフェスティバル（「若狭湾　ファミリーフェスティバル」）と同時開催とした。また、昨年度と少し内容を変え、海活動を２回入れるプログラムとした。そのねらいは以下の点である。

〇1 日目に親と子どもが別々に活動することを通して、子ども同士のつながりを深めたり自立を促したりする。また、保護者には、若狭湾での海活動を満喫し、自然体験活動の良さを味わってもらう。
〇２日目に親子で一緒に海活動する時間を設定し、今度は親子で若狭湾での自然体験活動をたっぷりと味わってもらう。

◆運営のポイント

〇安全上の注意
・海の活動については２つの注意点に絞って話をした。
　　ライフジャケットをしっかりと身に付けること
　　一人で行動しないこと
・安全上の注意については親子一緒に聞いてもらうことで、子どもは緊張感をもって、保護者にはライフジャケットの着用の仕方や安全面での配慮等を知ってもらう機会にした。
・班ごとに同じ色の水泳帽をかぶることで、人数確認ができるようにした。班にはスタッフが２名付いて子どもたちの安全に注意したり、活動をサポートしたりするようにした。

〇親子別の海活動
・自然体験活動を通して子ども同士のつながりを深めること、少しでも自立が促せるように、班編成では学年をばらし、兄弟も別々になるよう班編成を行った。
・親自身にも自然体験活動を満喫してもらい、今後の自然体験活動への意欲付けとなるようにした。

〇親子一緒の海活動
・２日目の親子一緒の海活動は、前日に水泳、磯観察、シーカヤックから選択してもらい、どの活動でも対応できるようにした。

３．アンケート結果

（１）アンケート

＜参加者＞

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	１００％	０％	０％	０％
この事業の運営はどうでしたか	８６％	１４％	０％	０％
親子別の海活動はどうでしたか	９３％	７％	０％	０％
親子一緒の海活動はどうでしたか	８６％	１４％	０％	０％

４満足　３やや満足　２やや不満　１不満

（２）参加者の声

〇飛び込みなど、できないことができるようになり、テント設営も子どもは考えながら設営し、手作り朝食もいい経験となりました。
〇親から離れて活動するのは初めてでしたが、たくましくやっている姿が見られて嬉しかったです。
〇年中の娘が離れられるか心配だったのですが、時間はかかったけれど離れて楽しめていて嬉しかったです。
〇１日目夫妻で過ごせたので、２日目は親子での活動が新鮮に感じた。
〇親も子どものように楽しくできました。
〇小１の子が、初めて見る人にも声をかけていて成長したなと思った。
〇２日目の親子一緒の海活動で、普段と違う子どもの表情が見られてよかった。また、一緒に自然と触れ合う体験をしていきたいと思った。
〇親も、こうした事業に参加して助けてもらいながらでしか体験できないので今回はとても良い体験ができました。
●親子別の海活動は、年中さんには早かったのか涙が…。小１はとても楽しかったようです。
●夏場に体育館でのテント泊は暑くてつらかった。外でのテント泊がよい。
●貴重品ロッカーがもう少しあるとよい。
●建物の場所やイベント開始時間など、不明な点が少しあった。

４．成果と課題

（１）成果

〇初めは、お父さんお母さんと離れて活動するときに涙を流していた子どもたちも、海活動に入るとすぐに泣き止み、水泳や磯遊びを楽しむ様子が見られた。
〇年中の園児の中には、初めは深いところを怖がっている子もいたが、慣れてくると飛び込み台のところまで行ってみようとチャレンジする様子が見られた。
〇磯遊びでは、保育園児も小学生も箱メガネを使って、どんな生き物がいるか一生懸命探す姿が見られた。ヤドカリを見つけて、喜んでいた。
〇親子一緒のシーカヤックでは、親子で一生懸命パドルを操作する艇もあった。途中休憩した浜では、親子で水泳をしたり、岩から飛び込んだり一緒に楽しむ様子が見られた。
〇磯観察では、親子でゆったりと海辺の生き物などを探すなどして楽しんでもらうことができた。
〇ライフジャケットの着用の仕方については、保護者の方としっかりと聞いてもらうことができた。
〇初めは、ライフジャケットの着用を嫌がる子どももいたが、命を守るために必要なものであることを伝え、海活動の約束として着用するよう伝えたところ、安全の注意を守り、フローティングジャケットをしっかり着用して活動できた。
〇子ども同士が仲良くなることで、保護者同士のつながりもできていた。
〇子どもたちの海活動では、自然体験を満喫するだけでなく、初めて出会った子どもたちがすぐに仲良くなり、一緒に活動することができた。

（２）課題

●保育園児と小学生との発達の差が大きく、班の中でもやりたいことがバラバラになってしまった。特に、年中さんは１対１の対応が必要な場合もあった。保育園児と小学生を分けるなど発達段階を考慮して班を編成し、スタッフを配置するなどより低年齢層に対する配慮が必要であった。
●急な天候の変化に対応できるよう、テント泊体験は屋内で行ったが、夏の蒸し暑さを考えると、雨天の場合より暑さに対する対策が必要で、今回は屋外のテント泊でもよかった。
●昨年、今年とフェスティバルと同時開催としていたが、今年度は参加者も増え、海の声キャンプとしての認知度も上がってきているため、同時開催ではなく単独での開催でもよいのではないか。その方が、スタッフや活動場所の充実が図れるのではないか。

５．活動の様子

【親子別海活動】

海の活動体験推進プロジェクト（S.E.A.プロジェクト）

【ライフジャケットの装着・後片付け】

【親子で海活動】

【テント設営・朝食作り】